

VI-53

高知県におけるふるさとの橋保存事業

高知県土木部道路課

同 上

（株）第一コンサルタンツ

同 上

森部慎之助

西原 滋

右城 猛

正員 ○ 松本 洋一

1. まえがき

近年、歴史的・文化的土木施設を発掘、保存しようとする動きが全国的に高まっている。高知県においても、清流四万十川流域に残されている沈下橋をはじめ、地域住民に親しまれてきた橋、歴史・文化的価値の高い橋を保存すべきという声が高まってきた。「ふるさとの橋保存事業」は、こうした県民の強い要望に応えるため、平成7年度に創設されたものである。

「ふるさとの橋保存事業」を実施するにあたり、指針（案）を作成したのでその概要を紹介する。

2. 事業実施の手順

古い橋を保存しようとする場合、まず、その橋の保存価値を評価しなければならない。そして、保存するとすれば保存方法、保存のための補修方法等について検討する必要がある。それらの手順を示したのが表-1である。

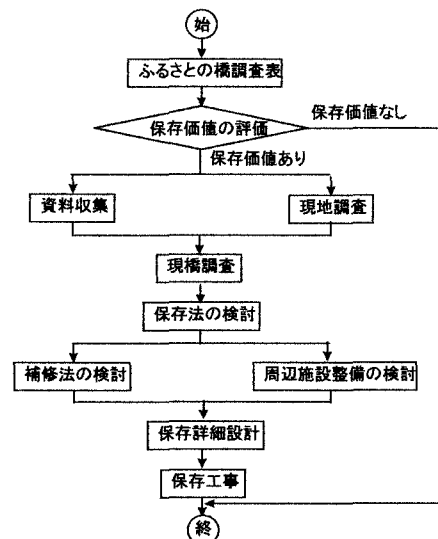


図-1 ふるさとの橋保存事業実施の手順

3. アンケート調査

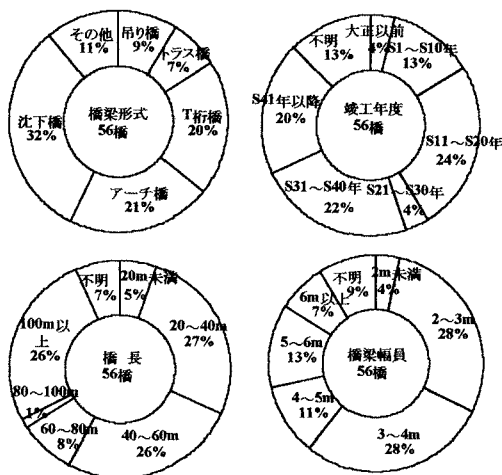


図-2 アンケート調査結果

ふるさとの橋として保存価値の高い橋を調査するため、高知全県下の土木事務所、市町村にアンケート調査表を送付した。これに対して回答があったのは56橋で、その内訳は図-2に示す通りであった。

4. 保存価値の評価

古来より、名橋と呼ばれる橋は下記のような条件を備えている。

- ①架橋が強く強く望まれた橋
- ②技術的に優れた橋
- ③姿・形の美しい橋
- ④周辺環境と調和した橋
- ⑤利用者に親しまれている橋
- ⑥古い歴史や伝承をもった橋
- ⑦話題性の多い橋
- ⑧地域の中で存在感のある橋

ふるさとの橋として保存価値のある橋は、上記の条件のいくつかを具備している必要がある。

5. 保存の方法

橋を保存することは、その橋の歴史的価値を顕彰する一手段であって、保存法には現地保存（現物保存、更新的保存）と移築保存（博物館的保存）とがある。

（1）現物保存

現物保存とは、歴史的価値のある橋をもとの架けられた位置にそのまま保存することである。橋は、その構築材料や構造形式によって差はあるものの経年的に老朽化する。このため、現物保存するためには適切な時期に適切な維持補修を繰り返して行かなければならない。

（2）更新的保存

木橋やかずら橋などは維持補修だけで長期間にわたって存続させることは難しい。橋としての機能を維持していくため、できる限り当初の姿を留めるように架け替えるのが更新的保存である。

（3）移築保存

保存価値の高い橋であっても、交通量の増加などに伴う時代の要請から現物保存あるいは更新的保存が困難なケースもある。このような場合、橋の全体あるいは一部を他の場所に移して保存するのが移築保存である。

どのような保存法を採用すべきかは、現橋の構造、損傷の程度、耐荷力、現地の交通条件、河川条件等を総合的に判断して決定する必要がある。

6. 保存のための調査

保存法及び保存における補修工法を決定するためには、文献調査、現地調査等を行い、下記の事項を明らかにしておく必要がある。

（1）架設年度と設計荷重

橋がいつどのような設計基準に基づいて、どのような荷重で設計されているかを、当時の設計図書や文献、橋に取り付けられている橋歴板等によって調べる。

（2）橋の材料と構造

橋の安全性を確認するためには、橋の構成材料

（石材、木材、無筋コンクリート、鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリート、鋼材）、構造形式、構造寸法を明確にする。架設当時の設計図書が保存されていない場合は、測量、ボーリング、コンクリートの削孔、鉄筋のはつり出し等の調査を行う。

（3）交通量と道路の改良計画

交通センサス等で、一日当たりの通過交通量、大型車の通行台数、歩行者数等を調査し、交通安全上現橋の幅員で問題ないか明らかにする。また、路線の改良計画について調査する。

（4）河川条件と河川改修計画

河川の計画流量、計画高水位、既往の洪水流量、高水位、被災状況等を調査し、桁下余裕や径間長等において河川管理上の技術基準を満たしているか調査する。また、現物保存した場合の治水上の問題点等についても検討する。

（5）橋の健全度

木材や鋼材の腐食、コンクリートの劣化、クラックの発生状況など損傷程度およびこれまでの補修履歴を調査し、現橋の健全度を判定する。

（6）橋の耐荷力

変状調査結果に基づき耐荷力の算定を行い、現行の設計基準あるいは実際の通行車に対する安全性を判定する。その上で、通行車の重量制限の可能性や修復、補強の必要性を判断する。

（7）周辺の道路状況等の調査

周辺の地形、道路状況を調べ、迂回路としての可能性を調べる。また、単に橋を保存するだけでなく、例えば橋の袂にポケットパーク等を新たに設置したほうが良いかどうかについて検討する。さらに、近くに名所・旧跡等があれば、それらの施設と連携させて整備した方が観光資源としての価値も高まると思われる。

7. あとがき

高知県では中山間部の人口減が大きな問題になっている。ふるさとの橋保存事業が、村おこしとしても役立つことを願っている。

【参考文献】

松村博：橋梁景観の演出、鹿島出版会